Dialysis therapy, 2020 year in review

友 雅 司¹ 小 岩 文 彦^{1,2}

¹ 日本透析医学会学術委員会

² 日本透析医学会学術専門部小委員会

「Dialysis therapy, 2020 year in review」を第66回日本透析医学会学術集会において開催させていただきました。

この「Dialysis therapy, year in review」は大会開催年の前の年：1年間の内外の透析療法に関する研究（臨床研究および基礎研究）に関する知識のアップデートとともに、これらの情報を集積し、今後のわが国のCPGのためのエビデンス構築、会員の先生方の知識の整理に役立てることを目的として企画されたものであります。

今回も昨年と同様、HD/HDF、PD、アクセス、栄養、感染症、貧血、CKD-MBD、心血管領域、糖尿病の九つの領域にわたって、学術委員会・学術専門部小委員会の委員および有志の先生方に、各先生方からの視点より興味深いと思われる臨床研究・基礎研究に関してレビューしていただきました。

今後、本企画においてレビューされた研究論文を中心に精査が行われ、本邦と海外の治療の乖離等が抽出され、本邦の治療およびその成績を発信するとともに本邦のCPG作成のために有用な研究がなされることが切望されます。

また、本セッションでは疫学的な研究のレビューのみならず、基礎研究についてのレビューもなされました。透析医療における革新的技術の萌芽に関する情報提供も重要と思われます。

日常の臨床業務に忙殺されておられる会員の皆様にとって、本企画が知識のアップデート等につながることであれば、企画したわれわれにとって望外の喜びとするところであります。

最後に、本企画の趣旨に賛同していただき、多忙の中、多くの論文についての精査、レビューをしていただいた演者の先生方に衷心よりの感謝を述べさせていただきます。